

令和6年度第3回瑞穂町地域公共交通会議

1. 開催概要

日 時：令和6年10月11日（金）10：00～11：30

会 場：瑞穂町役場会議室 2-1・2-2（オンライン併用）

委員：

No	所属	役職	委員氏名	出席状況
1	瑞穂町	副町長	栗原 裕之 ★	出席
2	日本大学 理工学部 土木工学科	教授	大沢 昌玄 ☆	出席 (Web)
3	瑞穂町寿クラブ連合会	会長	小野 芳久	出席
4	瑞穂町福祉作業所さくら	施設長	戸村 仁郎	欠席
5	公募 (町内在住)		小暮 彰	出席
6	公募 (町内在住)		徳永 道子	出席
7	立川バス株式会社	運輸部計画課長	佐藤 祐浩	出席
8	西武バス株式会社	計画部計画課長	秦野 凌	出席
9	東京都交通局	自動車部計画課長	若田 瑞穂	出席
10	横川観光株式会社	代表取締役社長	山口 和彦	出席
11	武州交通興業株式会社	事業部部長	濱田 興紀	欠席
12	一般社団法人東京バス協会	乗合業務部長	富樫 秀樹	出席
13	東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社	企画部長	宇野 弘之	出席
14	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務企画担当)	中山 俊夫	出席
15	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送担当)	佐藤 義尚	出席
16	立川バス労働組合	執行委員長	土岐 雅人	欠席
17	国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所	計画課長	古川 克利	出席 (Web)
18	東京都 都市整備局	都市基盤部交通企画課 地域公共交通担当課長	武山 信幸	出席 (Web)
19	東京都 西多摩建設事務所	管理課長	高橋 伸子	出席 (Web)
20	福生警察署	交通課長	杉本 伸幸	出席

★:会長 ☆:副会長

傍聴人:8人

次 第

- 1 開会
- 2 委員選出報告
- 3 議事
 - (1) 瑞穂町コミュニティバス運行状況の報告について
 - (2) 瑞穂町デマンド交通実証実験運行状況の報告について
 - (3) 瑞穂町地域公共交通計画の策定について
 - (4) その他
- 4 閉会

2. 議事録

委員選出報告

委員からの報告

- ・西武バス株式会社から、今年度限りで路線バス<小手 03>系統（小手指駅行きの便）を廃止することで、9月27日に東京運輸支局に届出を行ったこと、これに合わせ西武バスのバス停としては瑞穂町内の「富士山入口」「富士山」「高根」「水天宮入口」、入間市内の「太子堂入口」の5バス停の廃止手続きを進めていくことが報告された。

議事

(1) 瑞穂町コミュニティバス運行状況の報告について

- ・令和6年8月までのコミュニティバス利用実績について、事務局より報告を行った。

【会長】

実証実験期間中の5路線の8月までの運行データであるが、一番危惧しているのが10月から廃止する路線の住民の方々からいろんな声や情報が入っているかなのだが、いかがだろうか。

【事務局】

廃止した箱根ヶ崎・長岡コース、武蔵野コースに関して、意見は入っていない。

【会長】

心配したところでもあるのだが、あまり反響がないということであった。本年の8月までのコミュニティバス実証実験期間中のデータの説明をさせていただいたが、何かご意見があれば発言をお願いしたいと思う。

【委員】

今月からデマンド交通が運行開始になっているが、廃止する2路線を運行していたバスのリースが1台減ることになるのか。

【事務局】

実証実験期間中は計5台のバスが車両運行していた。うち3台が小型バス、2台が中型バスであり、2台の中型バスに関しては運行事業者である立川バスからのリースにより運行していたが、この10月1日で運行計画を変更することにより、路線が5路線から3路線に変更となったため、1台のリース車に関しては返却を行い、現在は小型バス3台と中型バス1台、計4台で運行している。

【委員】

西武バスからは路線廃止のお話とその理由のご説明があったが、今後、コミュニティバスについて廃止についての周知や、広報・公示という形で廃止の理由を説明する機会を考えているのか。

【事務局】

この3年間の実証実験については地域公共交通会議の中で分析して状況を報告したいと考えている。その後ホームページ等で皆様に実証実験の経過と実績、最終的な結果について報告したい。

(2) 瑞穂町デマンド交通実証実験運行状況の報告について

- ・コミュニティバスの運行計画変更案およびデマンド交通の運行計画案に関する認可申請の状況と、デマンド交通の実証実験に向けた説明会の実証状況、会員登録状況について、事務局より報告を行った。

【委員】

スタートして間もないが、近隣自治体も開始当初から利用者が最初から多かったわけではなく、徐々

に使っていただいた方がリピートして利用が増えていったところがあるので、今はその時期と思っている。私も初日に乗ったが、印象的なお客様もいらっしやった。松山公園で乗った女性の方は、「バス停まで行くのに15分ぐらいかかり、買い物をするのに約1時間半かかっていて本当に苦しんでいたが、神様がいてくれた」と喜ばれていた。これほど苦しんでいた方がまだいらっしやるのかと感じた。実際に使ってみないとわからないところもあるが、徐々に利用が増えてほしい。

【委員】

先月の24日の説明会に行き、その後すぐインターネットで登録した。パスワードが12桁で、大文字と小文字、記号と数字を組み合わせなければいけないので、トラブルになってうまくいかず、町の職員の方のお力をお借りした。その後すぐ、翌日の午後3時から夫婦で予約して、その手続きはもうあつという間にできた。一度体験してしまえば、あとはすごく楽だと思うので、積極的に地域の人に広めようかなと考えている。

【会長】

いきなり利用が増えるというよりは、利用者の話が広まりじわじわと認知されるように進んでいけばよい。紫色の帯が入ったワゴン車が走り回ることで、「あれは何だろう？」というような興味から周知ができればよいと感じている。

【委員】

デマンド交通という言葉自体を理解できない高齢者が多いと思う。またパスワードなどは場合によっては途中で断念する人もいると思うが、説明会の時にどのような質問が出たのか、またその問題をどのように解消できるかを教えてほしい。

【事務局】

デマンド交通を始めた経緯などを説明した。デマンド交通は予約制の乗合のタクシーであるということの説明し、説明会の中で5分程度の動画を見ていただき、参加者の皆様にデマンド交通とはこういうものであると理解してもらったと思っている。どの会場でも必ず出た質問としては、「行きはよいが帰りの予約はどうするのか？」というものだった。電話予約の場合にはオペレーターに繋がるので、オペレーターに帰りの予約をどうするか聞いてもらえれば、帰りの予定があれば余裕を持って予約できると回答した。またインターネットで予約すると、予約完了後に「復路も予約する」というボタンが出て、そちらを押すと簡単に帰りの予約もできるようになっている。そのような形で、予約の状況によるが、復路に関しても安心してご利用できる旨を説明した。また、運賃の支払いについても質問いただいている。「いつどのタイミングで運賃を払うのか」ということだったが、ご乗車の際に運賃が確定しているのでお支払いくださいとお話した。また「現金しか使えないのか、ICカードやQRコード決済は使えないのか」という質問もあったが、「現在は実証実験ということもあり、運賃は現金のみとさせていただいている。状況によっては、デマンド交通が定着し本格運行に移行する際に、現金ではなくキャッシュレス決済を導入すべきという意見をいただければ、検討したい」と回答している。それから会員規約の押さえていただきたいポイントなどをお話し、皆様からご質問いただいて回答している。わからないことは交通政策モノレール推進課事務局まで問い合わせをしてほしい。あとは、インターネットの予約に関して登録がうまくいかないことや、パスワードをどのようにすればいいかといったお問い合わせが数件入っている。こちらについても真摯に対応し、皆様に利用してもらえるように努めている。一度使ってみれば、スマートフォンではパスワードを顔認証や指紋認証ですぐログインできる初期設定もできるので、できる限り協力したい。

【委員】

お客さんがいない時は、車両はどこで待機しているのか。

【委員】

路上で停まるのはよくないので、役場の駐車場などを借りて待機している。

【事務局】

出張説明会以外にも11月にある産業まつりでも交通担当としてブースを設ける予定である。その場に来てもらい、「チョイソコ」のPRも行う予定なので、色々な方に状況を聞いてみて、「もう登録しているがインターネットが使えない」という話があれば、設定等を手伝えればと思っている。まずは利用会員を増やすことも大切であるが、そのような方々にどう使ってもらえるかということも重要である。電話予約だけでなく24時間対応できるインターネットで予約したいという方もいると思うので、そのような方々にも気持ちよく利用してもらえるように、事務局としても丁寧に対応したいと考えている。

【会長】

デマンド交通の登録の話であるが、役場の3階にデジタル推進課のコーナーを作っているところで、そこに専門のマイナンバーカードの健康保険証、認証など、マイナポータルのデジタル全般に関して様々なアドバイスと相談の場もある。これに限らずスマートフォンの使い方など、デジタルに関するお問い合わせはして頂ければと思う。

(3) 瑞穂町地域公共交通計画の策定について

- ・地域公共交通計画の策定の意義やポイント、策定に向けたアンケート案について事務局より報告を行った。

【委員】

1点目に、無作為の2,000名ということだが、これは役場が無作為に2,000名選ぶのか。2点目に、無作為という言葉について具体的に説明していただきたい。3点目に、今回のアンケート案では、一番後ろのページに『あなた自身についてお聞きします』とある。通常のアンケートでは、地域、年齢、性別、職業などが一番頭に来ると思うが、一番初めに個人に関する設問が来ている理由を教えてください。

【事務局】

アンケート調査の対象者については、役場で無作為抽出を行っている。

【委員】

コンピューターで無作為に2,000名を選んでいるのか。

【事務局】

18歳以上の方が25,000名ほどいらっしゃるが、その方々を無作為ということで、男性、女性に区分してそれぞれ番号をつけて、乱数により抽出をかけている。

【事務局(コンサルタント)】

属性が一番後ろにしている理由についてであるが、これまで経験から属性を頭に置いておくと、属性だけ答えて後ろを答えない方が結構いる。属性は大事であるが、どちらかというともっと大事なのはその前で書いてある内容なので、そういう意味で属性を後ろとしている。

【委員】

対象者の住民の人数は25,000人ということであるが、抽出は1割で大丈夫なのか。それから、この配布と回収の方法はどのような形をとるのか。一番後ろを見ると『お近くのポストに投函お願いします』となっている。そうすると個人回収になって、回収率が果たして2,000部配ってどのくらいの回収率を見込んでいるのか。せっかくこれだけの精緻なアンケートを実施するのだから、回収率をすごく大事にしないといけないと思う。

【事務局】

アンケートの対象者について18歳以上の方になる。今年度の長期総合計画のアンケートでも同様の抽出方法で3,000人の抽出で実施している。総合的には、25,000名の約10%で2,000名という抽出が公共交通に関するアンケートとしては適当ではないかと設定している。またアンケートの配布回収については、基本的には郵送とインターネットによる回答も想定している。郵送にあたっては返信用封筒を同封し、回答者の方の負担にならないように考えている。回収率については、過去のアンケート調査等も踏

まえ、40%を目標としたい。

【事務局】

コミュニティバスに関しても、沿道の住民の方々にアンケート調査を実施したことがある。インターネットによる回答は実施せず、郵送のみで行った時でも回収率が39.6%であったので、やはり40%というのが1つの基準となると考えている。

【委員】

行政に期待する取り組みや支援に関し、住民アンケートでは問16で聞かれている。事業者アンケートでも、同様の項目があるが、利用者アンケートに関してはこのような内容、質問がない理由があれば聞きたい。利用者のアンケートに満足度、重要度があるが、当然計画を策定するのに現時点で把握するのに必要だということはわかるが、当然ながら聞くからにはその内容について事業者が受け止めなければいけない状況になる。ただ、昨今の状況で非常に厳しい中で事業を維持する現状であり、利用者に対しても、行政に期待する取り組みとか支援を聞いた方がいいのではないかと考えるが、検討は可能か。

【事務局(コンサルタント)】

具体的に今の段階でどのような取り組みが計画に書けるのかということとあり、そういう意味であえて書いていない。何が不満なのかというあたりはある程度予測できているが、例えば一般的に増便等の要望は必ず出てくるが、果たしてそれに対して何が今の状況下で何ができるのか、ということについては、今のこのアンケートで回答選択肢として用意することが非常に難しいと認識しており、あえて入れていないのが現状である。

【委員】

アンケートの結果はこのような場で結果が報告されると思うが、そうするとその利用者の方のご意見、ご要望というのは事業者に伝えたということだけでは、なかなか今の状況と非常に厳しいと思う。事業者側も回答案がない中でこのような質問をしているということにもなるのではないかと思う。私は同じような質問をした方がいいのではないかと思っただけであり、必ずということではないが、その点について検討いただければと思う。

【委員】

冒頭で弊社の方の廃止の説明をさせていただいたので、申し上げにくい部分も非常にあり、地域公共交通計画策定に向けて、地域住民のアンケートを取ることは非常に重要だと思っている。しかし、この公共交通を取り巻く環境というのを、まずこのアンケートする前段で町民の方に知っていただくことが非常に大事だと思っている。何でこのアンケートをするのかということは、今回の会議の場では十分わかっているが、公共交通の輸送力が厳しい中で、再編も含めて検討していかなければいけないということも含めて、町民の方々にこのアンケートを実施する事前に提示することは非常に大事だと思っている。やはり自治体がアンケートを行うことで、町民が期待してしまうことや、色々な要望が非常に出てくる中で、路線バス会社として厳しい状況でもあるので、そのあたりの前提も含めて、町民の方にお伝えいただけると非常にありがたいと思っている。ご検討よろしく願います。

【事務局】

ご意見ありがとうございます。アンケートの前段で取り入れるか、もしくは今回依頼にするにあたって、依頼文を添付する予定であり、そこに地域公共交通計画の策定のための調査であることや、公共交通を取り巻く環境なども提示して、アンケートを実施することを考えていきたい。

【委員】

鉄道や路線バスの事業者はわかると思うが、タクシー事業者へのアンケートについては、どの事業者を対象としているのか。

【事務局】

事業所自体は町内にないため、箱根ヶ崎駅に乗り入れているタクシー事業者が京王自動車をはじめ4

社ほどあり、それに加え現在、タクシー協会西多摩地区会の会長である横川観光から情報提供を受け、適切に事業者の選定し実施したいと思う。

【副会長】

今回のアンケートは瑞穂町の中だけの結果であるので、それを踏まえて周りの市町村がどのようになっているのかというのは違うデータから見て、瑞穂町の特徴についてきちんと確認した方がよい。例えば数年前のデータのため参考になるかは悩ましいが、平成30年実施の東京都市圏パーソントリップ調査においては、瑞穂町の外出率はだいたい平均値と同じで比較的高い方である。一方で周りの青梅市は瑞穂町より5ポイント低いので、その原因は何なのかということはきちんと整理した方がよい。また、全目的代表交通手段は、瑞穂町は自動車が54%である。バスは1.5%、鉄道が19.4%である。地域公共交通計画においてモビリティマネジメントを考えていく際には、自動車から公共交通にどのように移転するのかということはきちんと考えなければならないと思う。

また、今の現役世代はなかなか厳しいと思うので、今の高校生たちが次の20年、公共交通に対してどう思うのかということが重要だと思う。資料に赤字で書かれていたが、ぜひ高校生たちの意向も聞いてもらえればと思う。

確認だが、バス利用者アンケートは箱根ヶ崎駅で配布するということがあったが、調査票の『あなたの自身の属性』のお住まいの地域については、町外を選べないようになっているのだが、対象は町民なのか、それとも公共交通を利用している人とされていたので、町民・町外の方関係なく聞くのか。

【事務局(コンサルタント)】

町外の方も含めて、利用されている方は全て聞きたいと思うので、アンケートの方は町内の方がお答えした時にわかるように修正したい。

【副会長】

お住まいについては、広く町内に『お住まいの方』と『そうでない方』で分けた方が親切だと思う。

(4) その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より報告を行った。

【事務局】

7月29日に開催した令和6年度第2回地域公共交通会議において、デマンド交通の実証実験運行計画についてご協議いただいた中で、デマンド交通に関して今回実証実験のスタートということで、運賃協議会という協議会を別で開かせていただき、その状況について報告をさせていただいた。しかし、コミュニティバスの運行計画の変更についても、路線の延長や廃止に関わる部分、180円均一で運賃自体は変わらないが、運賃協議会の開催の必要性があるというお話をいただき、急ではあるが、運賃協議会委員の皆様にお話をさせて頂き、180円という運賃変わらないのでそのままでご了承いただいた。今後、デマンド交通やコミュニティバスに関しては、運行計画を変更する際に、軽微な変更でない路線延長や路線廃止など、そのような計画の変更が生じた場合には、運賃協議会を開催させていただくので、委員の皆様にはご理解ご承知おきいただければと思う。

【委員】

本来であれば当方で手続きの審査をする中で、新たに路線延長、つまり今までバスが走っていなかったところについては、そこを国の方で運行していいよというところで認可を与えている。また、がこの部分について気付くのが遅くなったことから、路線延長部分についてはまだ運賃の設定がされていないので、運賃は180円共通で変わらないが、法律上、運賃の協議会をして協議運賃として利用しなければならないため、瑞穂町には迅速な対応を頂いた。

【事務局】

現在、箱根ヶ崎駅の西口工事の場所では、『OHAKOプロジェクト』というにぎわいや居場所を作るプロジェクトを実施している。また、この土地では他の民間事業者によるイベントや地域の盆踊りなどもこれまで開催されてきた。過去に開催されたイベントでは、工事用地の一部を駐車場として活用してい

たが、収容しきれずに列ができるということもあった。また、今月 10 月 26 日に『体験 OHAKO イベント』という比較的大きなイベントが開催され、みずほエコパークを駐車場として利用するが、やはり十分な台数は確保できない。そういった状況で今回デマンド交通の運行も開始したし、今度大きなイベントもあることから、この機会を捉えて公共交通機関の利用を呼びかけるものである。また、飲酒運転についても「絶対にやめてください」と記載している。飲酒運転は悲惨な事故が相次いだことから 2000 年代に厳罰化が行われた。それから十数年が過ぎたが、最近の報道でも皆様ご承知の通り、未だに悲惨な事故が発生している。こういったことも踏まえて、飲酒運転は絶対にダメという姿勢を今このタイミングで打ち出していきたいと考えている。これら公共交通機関の利用について、今後コミュニティバスの車内や駅舎など、目立つ場所に掲示していきたいと考えているので、ご承知おき頂きたい。

【委員】

情報提供として共有したい。先ほど路線バスの廃止という話があったが、9 月 20 日に福生にある大洋自動車交通が営業を停止・廃業した。25 台ぐらいあった会社だが、他の会社が引き継ぐということをしておらず、あくまでも無くなってしまったという状況になっている。おそらく瑞穂町の方であれば、福生駅東口などでタクシーを乗られる方が多いと思うが、現在、うちの乗務員さんに聞いてみると、ほぼタクシープールに車両が停まっていない状態で、お客様がタクシー乗り場に随時並んでいるというような状況が発生しているそうである。現在残っている西多摩のタクシー会社でカバーしようとしているが、今後、週末また年末の繁忙期にかけては、おそらく需要に対しタクシー車両が足りない恐れが生じると予想される。我々も全力で守っていかないといけないと思っているが、その点だけご承知おき頂きたい。

以上